



知夫小中学校
Tel 08514-8-2015
Fax " 8-2312
〒684-0100
知夫村 1053-1
[HP] https://www.chibumura.ed.jp/

2学期を迎えて 校長 熊本直宏

夏休みが終わり、学校に子ども達の元気な声が帰ってきました。休み中に子ども達の姿を見かけましたが、暑い中部活や陸上を頑張っていたり、学校で勉強をしていたり、家の手伝いをしたりと、子ども達も充実した夏休みを過ごしているなど感じました。

さて、八十二日間の2学期が始まりました。始業式で子ども達に「自分を鍛える」2学期にして欲しいと話しました。普段の学習はもちろんのこと、島前陸上、体育大会、新人戦、音楽会、学習発表会等に進んで取り組み、自分で自分をしっかり鍛えることで、一人一人の力を伸ばしたいと願っています。

- ① 小中一貫校の利点を生かし、九年間で知夫の児童・生徒を育てる
- ② 少人数であることを生かし、個別のニーズに応じた教育的支援を実施する
- ③ 複式学級の学びを生かし、進んで学ぼうとする授業づくりと学習集団づくりに努める
- ④ 知夫（島前）のヒト・モノ・コトを最大限に生かしたふるさと教育を推進する
- ⑤ 島留学制度を生かし、挑戦への意欲が高い学校、学級づくりに努める
- ⑥ 一体型施設（教育委員会、村図書館）の利点

【学校教育目標】
未来を切り拓く
心豊かでたくましい
知夫の子どもを
育成する

【めざす子ども像】
・自ら学ぶ子ども
・共に生きる子ども
・たくましく
生きる子ども
・ふるさとを
愛する子ども

を生かし、積極的な情報発信に努める
⑦ 社会人としての自覚を高め、保護者や村民との信頼関係づくりに努める

2学期の具体的な取組みの重点として
○ 自ら学ぶ意欲を持って、考えたり調べたりする

【創造】

- ・ 校内研究授業の実践
- ・ 小学部学力パワーアップ週間と計算漢字大会の実施
- ・ 家庭学習の手引き作成と家庭学習の充実・中学部キャリア学活の充実

○ 思いやりの気持ちを持って、友だちを大切にする

- ・ がんばったカードの作成・掲示
- ・ 道徳の授業の充実
- ・ 教育相談の実施

○ 難しいと感じることも強い心と体で挑戦しやりきる

【自立】

- ・ 「心技体」を鍛える部活動、課外活動
- ・ マラソン大会の充実
- ・ メディア啓発
- ・ 児童生徒会の活性化と壮行式の小中交流

○ 知夫のよさを体感し、よさを伝える

- ・ 『愛郷』
- ・ 九年間を見通したふるさと教育計画の作成
- ・ 各地区寄り合いへの参加
- ・ 中二『子ども議会』、中三『地域貢献活動』の設定

に取組んでいきます。

保護者・地域・関係機関の皆様と連携しながら、着実に前に進めていきたいと思っておりますので、今学期もご理解・ご協力を宜しくお願いいたします。

自分を見つめ・考える 職場体験



知夫小中学校では、「地域に学び、ともに生きる心や感謝の心を育み、激変する社会で生きる力を育成すること」をねらいとして、平成三十年八月二十七日（月）～八月三十一日（金）の五日間、中学二年生の職場体験学習「Chalenge 5 Days」（チャレンジ・ファイブ・デイズ）を実施しました。

緊張の一日目、仕事を覚える二日目、仕事に慣れる三日目、仕事を創意工夫しようと考えた四日目、感動の五日目と、五日間の職場体験を実施することにより、生徒の体験や体験先の方々との人間関係が深まるとともに、生徒にとって働くことの素晴らしさや喜び、厳しさなどの理解が進むなど、様々な教育的効果を期待して行いました。今年度は、西ノ島小学校、島前病院、シオン保育園、知夫郡保育所、古谷水産に、ご協力いただきました。五日間という体験の中で、色々なことを学び、成長していく生徒の姿を見ることができました。この体験を通じて、生徒自身がこれからの自らの進路をしっかりと見つめられる時間となりました。地域の皆様、ご協力ありがとうございました。

〔中学部二年担任 石橋〕

〔生徒の感想〕

中学部二年

〔一日目〕
古谷さんの手伝いができて嬉しかった。子牛がとても可愛かった。牧場が作れて嬉しかった。

〔二日目〕
ドリルでうまく穴を開けられなかった。雨の中、沢山のゴミを運んだが、最後までやり遂げられた。牧場が作れて嬉しかった。

〔三日目〕
車を誘導することができなかった。屋根の上から落ちてくる砂や石をきれいにほうきで掃くことができた。後もう少しで完成するので楽しみ。

〔四日目〕
牛にえさをあげることが早くできなかった。筏と屋根があとちよつとで終わるから早く完成させた。古谷さんに迷惑をかけないようにしたい。

〔五日目（最終日）〕
初めてカキをあげたり、洗ったりと、貴重な体験ができて嬉しかった。のこぎりで木材を早く切ることができた。また、古谷さんのお手伝いがしたいです。

自分とどう闘ったのか 島前陸上大会

九月十六日（日）に島前陸上競技選手権大会が行われました。保護者の皆様や地域の皆様には、たくさんの応援をいただきありがとうございました。天候が心配された今年度の大会でしたが、子ども達も最後まで粘り強く闘う姿が随所で見られ、練習の成果を十分に発揮することができました。この大会で身につけた力や学んだことを、今後もマラソン大会や日々の学校生活などに活かしていきたいと思っております。〔体育担当 長崎〕

〔児童の感想〕

小学部三年

どうせん陸上大会にむけ、どんな自分とのたたかいてしてきたのかたええです。

私は小学三年生。はじめて陸上練習をしました。ふあんな気持ちでしたが、やってみるとこれは楽しいなと思いました。でも、次の日、朝おきたら太もものつけねがいたくなっていました。でも、それは練習をがんばったあかしだとおもいました。それからの練習は、六百メートルをはかったり百メートル走をしたりしました。六百メートルは三分八秒というけっかでした。もう、足がうごかなくなるくらいつらくてきつかったです。練習の中で、六百メートルのさいこうきろくは二分四十九秒。考えてみると、タイムがすごくちぢまってきた。思います。大会の日、私はすごくきんちようしました。六百メートルは、次から次へとぬかされていきました。でも、がんばりました。全力でした。けっかは、後ろから三番目。負けたけどがんばれました。自分とたたかえました。

小学部六年

今回の島前陸上大会はぼくたち六年生にとって最後の大会でした。だから、気持ちを引締めようと思えました。練習のはじめは本気でやっていた人も少なく、みんなの気持ちもバラバラでした。でも、練習に慣れてくると「がんばれ、ファイブ。」などの声がとび交う練習風景になっていきました。そして本番の日、自分たちからあいさつをして、心から大きな声で応援をしようと思っていました。百メートル走、高跳びと出場し、最後は千メートル走でした。千メートル走は気持ち強く持つことが大事だと思いました。スタートして、最初から飛び出そうと思いましたが、内側をとられてしまいました。それから、少しペースを上げました。が前の人をぬけずに負けてしまいました。今回ぼくたちは、結果はついてきませんでした。ただ、これからはマラソン大会やなわとび大会があります。六年生として、みんなの手本となれるように行動したいと思っております。

地域の方と一緒に楽しむ
村民体育祭

九月二十二日、知夫小中学校グラウンドにおいて、「第六十三回村民体育祭」が行われました。小中学生とも元氣いっぱい競技に参加しました。中学生は競技に加え、役員としての仕事やC級グルメリにも取り組み体育祭を盛り上げました。今年度からの試みである小中合同でのソーラン節は、来くださる地域の方々に喜んでもらうことを目標に練習してきました。来られた方々からたくさん拍手喝さいをいただいたあとの、子どもたちの達成感を得た表情が印象的でした。「体育担当 長崎」

〔生徒の感想〕

私にとって中学校最後だった村民体育祭は、最高の思い出になりました。特に、ソーラン節は、初めてやってみて、とても楽しかったです。練習を重ね、本番でアンコールが来たときは、うれしかったです。また、C級グルメリ選手権では、休みの日に集まってみんなで作り、本番では三年生が一・二位を取ることができました。生徒会本部としても企画が成功し、中学生が楽しそうに活動する様子を見て、本当に良かったです。よかったと思います。

中学部三年

中学部二年

体育祭はすごく楽しかったです。その中でC級グルメリ選手権は楽しかったです。みんなで協力してぜんざいやキャラクターを作ることができました。キャラクター賞も一位だったので嬉しかったです。そして、今年はソーラン節に挑戦しました。本番のソーラン節では、一番大きい声が出ました。すごく感動したと思います。来年も皆で協力して準備をしたいです。



小中一貫校の
強みを活かす④

月 日 曜日

少人数 ※本校の現状について
～人数が少ないからこそつけられる力がある～

今月は、「知夫小中学校の強み」として「少人数」を取り上げます。まず初めに、「少人数学級」について考えます。知夫小中学校の、学級の人数は次の通りです。

学 年	小学部1年生	小学部2年生	小学部3年生	小学部4年生	小学部5年生	小学部6年生
学 級	小学部1・2年生		小学部3・4年生		小学部5・6年生	
人数(人)	2	4	3	4	3	4
合計(人)	6		7		7	

学 級	中学部1年生	中学部2年生	中学部3年生
人数(人)	8	5	10

「少人数学級」とは、何人から何人が少人数学級なのか明確な定義は存在しません。全国の1学級の人数の平均は40人程度です。そこから考えると、1学級が20人、30人などが少人数学級と考えるようです。その考えから、知夫小中学校を見るとどうでしょう。今年度に限らず、もう何年も前から少人数学級で教育活動が行われており、ここ数年は、極少人数での教育活動が展開されています。

もちろん、少人数であることにデメリットは存在します。しかし、少人数であることを知夫小中学校の「よさ(強み)」として捉えることで、子ども達に与えることのできる機会や、つけることができる力は限りなく広がります。「少人数」であることが、知夫小中学校にとってどのような強みとなっているのか、教職員で考えました。挙がった考えを下記にまとめて紹介します。



一人ひとりが大切にされる	一人ひとりに丁寧な指導ができる	「分からない」を少なくできる
一人ひとりに深い理解をさせることができる	一人ひとりが主役になれる	様々な体験ができる
他学年の友達と深く関われる	密な人間関係が構築できる	縦割り班活動が多くなり、上級生の活躍の場が増える
発言する力がつく(発言の場が多い)	体力がつく	人とのつきあい方が学べる(折り合いをつける力)

来月号では、教職員が考える「少人数の強み」が、実際どのような場面でどのように生かされているのか紹介します。

隠岐中学弁論大会(報告)

九月七日(金)に隠岐の島町の文化会館で第四十七回隠岐中学校弁論大会が開催されました。知夫中学校からは、中学三年生の浅津うららさんが学校代表として出場しました。どうして島留学生として知夫に来たのか、来る前に悩んでいたこと、知夫に来て変わったことについて堂々と自分の主張を発表することができました。残念ながら、入賞はできませんでしたが、大会後は様々な方から声をかけていただきました。素晴らしい発表になりました。

PTA奉仕活動(お礼)

八月二十六日の「PTA奉仕作業」には、保護者の皆様に多数ご参加いただき、ありがとうございました。今年度は、例年に比べて校庭に草が少なかったため、校舎周りやフェンス沿いの除草・溝掃除等を行いました。保護者の皆様のおかげにより、子ども達だけではできない場所も大変きれいになりました。環境が整備され、二学期を気持ちよくスタートできたことを、大変うれしく思います。本当にありがとうございました。

6月の写真

